卒業６０周年記念事業案

半世紀以上も昔、私が深志高校で学んだ時最初に印象に残ったのは
クラシカルでどっしりと落ち着いた校舎や講堂のたたずまいであり、それを取り囲むヒマラヤ杉などの大きな樹木の茂った構内でした。こんな環境で学べることに嬉しく誇らしい気持ちになったものです。

母校にも長らくご無沙汰でしたが近年久しぶりで訪れてみた時、何かが違うように思いました。目に入る正面の校舎と講堂の外観は健在だし、南側の道路沿いには昔ながらの生垣があり、前庭にはヒマラヤ杉も健在で半世紀前の面影があるのですが、敷地を取り巻く道路を巡って北側に来た時にこれだと思いました。昔北側と西側は狭くて人通りの少ない道でしたが、今は広く拡幅されバス通りとなっています。一段高い所を走る道路から見下ろす校舎やグラウンド周りには、樹１本無く丸裸のようで痛々しく見えました。映画セットの裏側を観せられたような薄っぺらな景色でした。学校の環境はもっと豊かであってほしい。周辺地域へも貢献する景観をつくっていってほしいと強く思いました。

それゆえに、豊かな学園環境、また周辺住宅地の景観を豊かにする為に、構内周り・グラウンド周りに樹木を植えることを６０周年記念事業にすることを提案します。
お金を集めて、植木業者に発注するのではなく、自分たちで計画し自分たちで植えるのです。（専門業者の協力を得ながら）。私たちの仲間にもその道に詳しい人がいると思います。

敷地やグラウンド周りに樹木を巡らして緑地帯をつくることは、学園の環境・周辺住宅地の景観を豊かにするだけでなく、大火などの災害から身を守る防火林としての役割や周辺住宅地への防音・防砂等の効用も期待できます。

このような事業はもちろん学校の了解が必要ですし、行政庁との調整も必要でしょう。
関係者の理解を得るのは大変なことと思います。

この計画は一気に完結することは難しいかもしれません。植えたい場所に建物があったりします。できるところからやれば良いと思います。このような計画が学校に理解されたら次の建物更新時に植樹計画案を加味して建物を建てていけば良いのです。
樹木も最初から大木である必要はありません。予算に合わせて小さい苗木からのものも混ぜていけば良いと思います。学生達と一緒に植樹ができればいいですね。

６０周年記念事業は回顧的なもの、一時的なものでなく、１０年先３０年先に思いをはせて母校の為周辺地域の良好な景観環境つくるために未来志向の持続的なものにしたいと考えました。記念事業の候補としてご検討いただければ嬉しいです。

２０２０年7月１４日
飯森昌文

松本深志高校　植樹計画案　（卒業60周年記念事業）

現状のGoogle Map